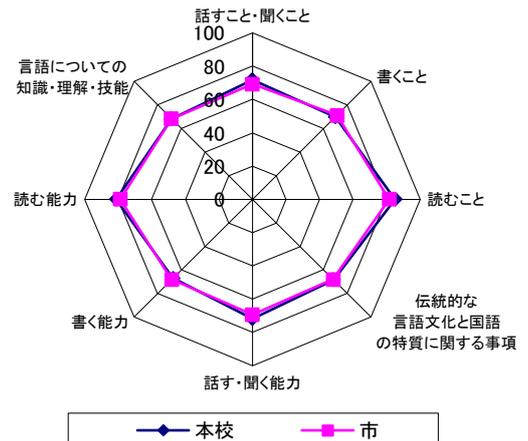


宇都宮市立平石北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	71.8	69.3	73.4
	書くこと	69.9	71.3	74.6
	読むこと	84.9	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.3	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	71.8	69.3	73.4
	書く能力	67.0	68.1	71.7
	読む能力	81.3	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	68.4	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

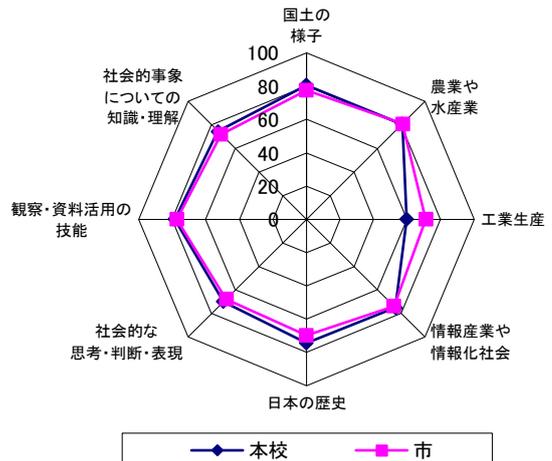
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市の平均を2.5ポイント上回っている。 司会者の役割を理解し、計画的に話し合おうとすることがよくできている。 話し手の意図を考えながら、話し合いの内容をまとめることがよくできている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じた話し合いの進め方マニュアルを提示し、見通しをもって主体的に話し合いに参加できるようにする。 ペア学習やグループ学習での話し合いの際、相手や目的に応じて自分が伝えたいことや、相手の意図を捉えながら自分の意見と比べる活動の機会を今後も取り入れていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市の平均を1.4ポイント上回っている。 指定された長さで文章を書くことができている。 国語辞典の資料を使って、意見文に書く内容を理解することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題作文や日記指導などを取り入れ、自分の考えをわかりやすく表現する練習を日常的に繰り返し行う。 資料を活用して、自分の考えの理由や根拠を表現するための言葉を使って書けるようにする。他教科においても必要な情報を集め、まとめる活動を意識的に取り入れる。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市の平均を3.4ポイント上回っている。 目的や必要に応じて、場面の描写と登場人物の心情を読み取ることができる。 説明文においては、「段落相互」の関係を考えながら内容を読み取ることがやや苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文の学習では、繰り返し出てくる重要語句や筆者の考えが読み取れる文に着目し、段落相互の関係を考えながら内容を読み取れるようにする。 読書を推奨し、いろいろな分野の本を進んで読むように指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市の平均を0.2ポイント上回っている。 三字の熟語の構成についてよく理解している。 尊敬語の使い方は理解しているが、謙譲語の使い方は苦手である。 学年配当漢字を書くことに個人差があり、十分理解している児童もいるが、定着が図れていない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や場面に応じた敬語の使い方や、相手の状況や気持ちに応じて適切な言葉を選ぶことや、配慮ある話し方について今後も指導していく。 漢字を正確に読み書きできるように、朝の学習やミニテスト、家庭学習において既習漢字の習得を図る。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	80.6	77.5	74.0
	農業や水産業	80.9	81.1	73.7
	工業生産	59.7	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	75.0	73.7	63.2
	日本の歴史	74.3	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	70.1	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	78.5	77.3	75.5
	社会的な思考・判断・表現	74.6	72.2	73.1
	社会的な思考・判断・表現	74.6	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

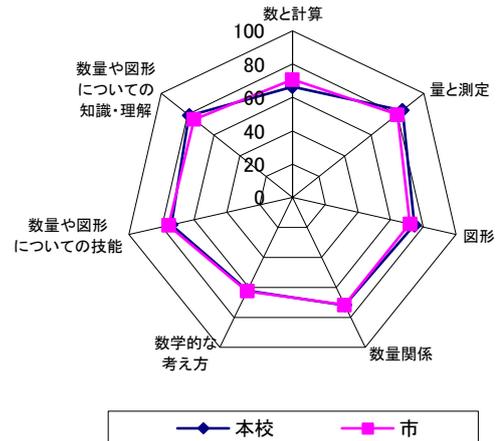
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市の平均を3.1ポイント上回っている。 日本の周辺の海洋名や周囲の国旗についての理解が低い。 防災マップや会話文を参考に、自然災害がおきた際の自助の大切さについて考えて表現することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀や地図、資料集の活用を大切にしながら指導を継続して行う。 インターネットや図書資料から調べたことをノートや新聞等にまとめる活動を通して、主な国の名称や位置、日本の周辺の地理についての理解が深まるようにする。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市とほぼ同じである。 日本の食料生産がかかえる課題について、資料をもとに考えることができています。 米の生産がさかんな地域について資料を読み取ることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食料生産について、グラフから何が読み取れるかをじっくり考える場面を設け、現状と解決策を話し合うようにする。 今後も理科や総合的な学習の時間の学習などの他教科・他領域との関連を大切に学習を展開していく。 資料からどんなことが読み取れるのか、説明に適した資料はどれなのか、多くの問題に取り組むことで、課題を解決する力が高まるようにする。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市の平均を11.3ポイント下回っている。 化学工業の製品についての理解が低い。 工業地帯・工業地域の立地について、資料を読み取り考えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、自動車工場見学などの本物を見て気が付いたことやグラフから読み取って考えたことを話し合う場面を設け、考える力・表現する力が向上するようにする。 資料からどんなことが読み取れるのか、説明に適した資料はどれなのか、多くの問題に取り組むことで、課題を解決する力が高まるようにする。
情報産業や情報化社会	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市の平均を1.3ポイント上回っている。 身の回りのメディアについて理解している。 医療における情報ネットワークの利便性について、資料を読み取り考えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も自分の身のまわりのメディアやインターネットに注意深く目を向ける力を養うため、情報モラル教育の充実を図る。 道徳などの他領域の学習とも関連付けながら、課題を解決する力を高めることができるようにする。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市の平均を4.6ポイント上回っている。 鎌倉時代から江戸時代についての正答率が高かった。 年表などの資料を活用して、時代の出来事や様子について読み取り考えたり、表現したりすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も歴史への興味・関心を高めるため、資料集や動画を活用し、学習内容が理解しやすいようにしていく。 歴史上の人物を主人公にした図書の紹介や新聞作りを継続して行い、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	66.4	70.8	65.9
	量と測定	83.8	79.9	77.0
	図形	74.5	71.8	74.6
	数量関係	72.0	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	62.2	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	74.0	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	78.9	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

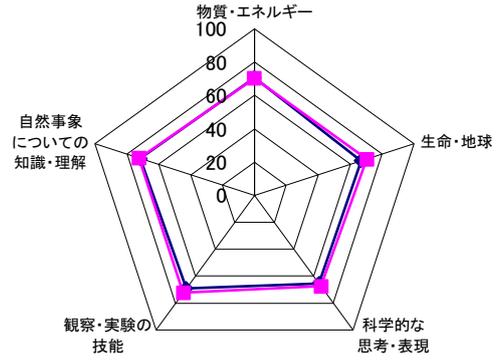
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市の平均を4.4ポイント下回っている。 小数のかけ算・わり算の仕方は身につけている。 小数の計算の問題場面を理解し、式の表しているものを選んだり、求めた答えが示された条件と矛盾することを説明したりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の問題場面を考えたり、文章問題を扱ったりする場面では、線分図や数直線などを書きながら考え、式と図を関連付けられるようにする。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市の平均を3.9ポイント上回っている。 ひし形の面積や直方体の体積を求める問題や、式からその求め方を示した図をもとめることができている。 単位量あたりの大きさを使って、混み具合を比べる問題の正答率が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのものの面積や面積の求め方については、視聴覚教材を活用したり自らが操作する機会を取り入れたりしながら、学習内容の定着を図る。 朝の学習の時間や授業の始まりなどを利用し、問題演習を繰り返し行ったりする。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市の平均を2.7ポイント上回っている。 合同の条件を理解し、見本の図形を正確に作図する問題の正答率が低かった。 線対称な図形の対象の軸について理解しているが、点対称な図形の対応する点についての理解が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 定規やコンパス等を使って作図を指導する際は、十分な活動時間を確保し、使い方の習熟を図る。 図形の構成要素については、既習内容を確認し、復習するための練習問題に取り組ませる。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市の平均とほぼ同じである。 文字の式では、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる。 グラフの見方や比例・反比例の関係、割合や比の意味について理解が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 割合や比の指導では、実生活との関連を図り具体的な場面を想定して問題を作るなど、児童が興味関心をもって問題に取り組めるように授業の導入の工夫を工夫する。 各種グラフから割合や変化の特徴を読み取ることができるよう復習をし、問題演習を繰り返し行っていくことで定着を図っていく。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.6	70.3	69.0
	生命・地球	66.9	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	65.4	67.5	66.4
	観察・実験の技能	69.1	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	71.6	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



● 本校 ● 市

★指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市の平均とほぼ同じである。 「ふりこのきまり」「物のとけ方」については、正答率が市の平均を上回っている項目が多い。 「物の燃え方」と「水よう液の性質」については、正答率が市の平均を下回っている項目が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心をもって実験に取り組めるように、授業の導入の仕方を工夫する。 学習内容の理解を深めるために、実験結果のまとめや考察の時間を十分に確保するとともに、自分の言葉で説明できるように指導する。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、宇都宮市の平均を5.8ポイント下回っている。 「植物の発芽と成長」「生物とかんきょう」「月と太陽」については、正答率が市の平均を上回っている項目が多い。 「動物のつくりとはたらき」と「植物のつくりとはたらき」については、正答率が市の平均を下回っている項目が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 月や地層の観察など、学校では実際に観察できない内容については、インターネット動画や出前授業などを活用して、学習の理解を深める。 動植物の観察では、変化がとらえやすいように長い期間観察できるようにする。 まとめノートを作ったり、練習問題を解いたりして、言葉の意味の理解や学習した内容の定着を図るようにする。

宇都宮市立平石北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「わかった!」「できた!」「楽しい!」を実感。 ～学びにおける基礎・基本の重視と伝え合う活動の工夫～	基礎・基本が確実に身に付くように学校全体で共通理解し、全職員で朝の学習の指導に取り組んだり、自由学習コーナーを設置したりして学習の定着を図る。	「新しく習ったことは、繰り返し練習している」「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」についての肯定的回答が多かった。朝の学習や授業開始時の計算ストレッチを取り入れることで、基礎・基本の習熟を図ることができた。今後も家庭や地域学校園と連携し、家庭学習の充実を目指す。
	話し合いなどの言語活動の充実を図り、学習形態を工夫自分の考えを深め、授業の中で話し合う、発表し合うなどの伝え合う場面を意図的に設定する。	「グループなどでの話し合いに進んで参加している」や「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」についての肯定的回答が多かった。ペアやグループ活動など学び合いを深める学習形態を工夫してきたことで、多様な意見に触れながら自分の考えを深めることができている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

伝え合う活動の工夫を行ってきたことで、ペアやグループ学習で友だちによくわかるよう自分の考えを話したり、友だちの話をじっくり聞き進んで話し合ったりする活動ができてきた。しかし、調査結果からは以下のような課題が見られた。

国語では「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」ことを苦手としている児童が多い。授業においては、書いたものを発表し合って交流する活動を行ったり、文章の内容をお互い吟味し、助言し合うなどの活動を取り入れていきたい。算数では「資料の特徴や傾向を読み取り、それらに関連付けて判断し、記述する」ことを苦手としている児童が多い。授業においては、一つの資料からの判断だけでなく、複数の資料に関連付ける事象を扱ったり、そこからわかることを交流させたりする活動を取り入れていきたい。

基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、習得した知識・技能を活用して考え、まとめ、表現する学習活動を充実させたい。また、活用する力を育成するための交流活動も工夫していきたい。